第６学年　社会科の実践

１．単元名　　「全国統一への動き」　（全９時間　本時６時間目）

２．単元目標

・戦国の世が統一されたことについて理解するとともに、海外資料や文化財、地図帳や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
・信長・秀吉・家康や北条氏の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
・信長・秀吉・家康の全国統一、北条氏について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、より良い社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

３．「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題をもち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
高学年ブロックテーマ「仲間への理解、自立する自分」
・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿
・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

＜聴く・話すについての指導＞

学習活動をはじめ、学校生活の様々な場面で、「聴く・話す」を意識した活動を取り入れている。考える時間を保障し、自分の出番を考え質問したり、意見を言ったりすることができる学び合いにしていきたいと考え、指導を重ねている。話し手として、どの言葉を使えばよいのか、どのような順序立てで相手に伝えればよいのか常に考えながら話ができるようにしている。また、教師の発問や友達の考えに対して、自分の考えと比べながら聴いたり、分からないことを質問したり、思ったことを伝えたりするよう促し、「聴く」ことの大切さを指導してきた。相手意識をもった「聴く・話す」活動にしていく中で、聴くことのよさを味わうとともに、自分の話を聴いてもらえる心地よさを実感できるようにしている。

＜これまでの関わり合い・ひびき合い＞

ペアやグループでの活動や話し合いでは、進んで友だちと関わり合う場面が多く見られるようになってきた。教え合ったり、質問し合ったり、友達の意見を言い換えたりする姿もある。しかし、全体での話し合いでは、話し手の相手意識や聴き手の受容的・共感的姿勢にまだまだ課題がある。相手意識をもって話したり友達の意見につなげて考えて聴いたりする場面が少しずつではあるが見られるようになってきたが、ひびき合いには至っていないのが現状である。代表委員会の議題、クラスイベント、総合的な学習の時間の活動内容などについては、活発な話し合いになることが多い。自分の生活に直接関係する事柄や、興味がある話題、全員の考えが反映されなければいけないと子どもたちが考える話題に対しては、意欲的に話し合うことができる傾向にある。学習の場面においては、反対・賛成などの意見が分かれるような問題や、正解が誰も分からないような問題などを扱った学習場面に対して、意欲的に相手の話を聴こうとし、自分の考えを深めようとする様子が見られ、普段は控えめな子どもの参加意欲も高い。なるべくみんなが意欲的に参加できるような問題を学習場面で設定し、話し合ったことが自分の考えや認識・感覚を構築することにつながるように努力しているところである。

４．単元と指導について

＜単元について＞

本単元の設定（学習指導要領　社会　第６学年）

（２）　我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア　次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。 （カ）　キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解すること。 イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 （ア）　世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

本単元は、大名が領地を広げようと戦い、全国統一を目指す戦国時代を扱う。戦国時代は、室町時代に起こった応仁の乱から始まり、その後豊臣秀吉が小田原北条氏を倒して全国を統一するまでの約１００年間と捉え、学習を進める。戦国時代に自分たちが住む小田原が関わっていると知ることで、より興味をもって学習できる単元であると考える。

織田信長、豊臣秀吉、徳川家康３人の業績を学習する内容に加えて、小田原北条氏についても扱っていく。子ども達の住む小田原の礎を築いた北条氏について学ぶことで、その当時の人々の思いや願いに

触れていく。また、小田原が戦国時代に大きく関わり、全国統一の最後の砦であったことを知ることは、地域の歴史を知り、地域を愛する心情を育てることにもつながると考える。

歴史を学び、過去から受け継がれてきたことを受け止め、現在の生活に生かしていくことは、これからの社会で生きていく子ども達にとって、必要不可欠である。また、そこに歴史を学ぶ意味を感じられるようにしていきたい。

＜指導について＞

本単元の導入では、これまでの時代に関わってきた人物をふりかえり、「戦国時代はどんな人物が関わっているのだろう」という疑問をきっかけに進めていく。数多くの武将が戦国時代を駆け抜けてきたと知ることで、時代背景をつかむとともに、有名な武将の中に小田原北条氏がいることに気付けば、子ども達は小田原と戦国時代の結びつきに興味をもつことができると考える。

北条氏が１００年もの間五代にわたって小田原を支配していたという事実や、北条氏が降参し戦わずして戦が終わった事実から、「北条氏はなぜ、１００年続いたのか？」「北条氏はなぜ、降参することを決めたのか？」といった疑問が出てくると考える。それらの疑問を解決するためにまずは北条五代の１００年間について学習する。その上で、本時に子どもが解決したい問題は、「北条氏はなぜ、降参することを決めたのか？」である。調べたことを伝え合う中で、戦い方や政策、町づくりの理念に触れ、北条氏が小田原のまちの基盤をつくってきたこと、小田原の人々が北条氏をどう捉えていたかということにも気付かせたい。また、小田原攻めを秀吉側から見て考えるなど、小田原北条氏について多角的に捉えられるようにしたい。そして、北条五代の１００年について調べたことや交流した仲間の考えをもとに、北条氏が降参することを決めた理由について再考する姿をひびき合いの姿とする。

単元の後半では北条氏を滅ぼした豊臣秀吉が全国統一を成し遂げた業績や織田信長や徳川家康について学んでいく。江戸幕府の政治や町づくりに北条氏の政治が生かされていることなどからも、今以上に小田原への愛着を深めていくことを願っている。

ノート指導については、単元を通して毎時間のふりかえりを書いていく。また、問いに対して個々で考えをノートに書く・全体で考えを共有する・再び自分の考えをノートに書く、という流れで進めていく。ふりかえりでは、毎時間ごとの自分自身の気付きを実感し、全体での関わりでは、自分の考えが深まったことをより実感することができるのではないかと考える。資料の読みや友達との交流によって、自分自身の考えが深まっていくことに気付かせたい。

５．単元構想　６年社会科「全国統一への動き」（６／９）

・戦国の世が統一されたことについて理解するとともに、海外資料や文化財、地図帳や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身につけるようにする。
・信長・秀吉・家康や北条氏の政治の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
・信長・秀吉・家康の全国統一、北条氏について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、より良い社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情を養う。

前時までに・・・応仁の乱により、室町幕府が崩れ、戦国時代が始まっていく流れをつかむ

戦国時代はどんな人物たちがかかわっていくのだろう①

・織田信長 、豊臣秀吉、徳川家康の３人の戦国武将を知っているよ　・名前は聞いたことがあるな
・戦国って言うくらいだから、すごく戦いが多かったのかな　・親や兄弟と戦うこともあったんだよ
・他にもたくさん戦国大名がいるよね

戦国大名の勢力図変遷を示し、戦によって大名が領地を支配していたことが分かるようにする。

・北条氏って小田原のかな？
・小田原の北条氏って、戦国時代の人なんだね
・北条だけはずっと続いているね

北条五代祭りや小田原駅早雲銅像の写真を提示し、子どもたちにとって身近なものから興味をもてるようにする。

・豊臣秀吉と北条だけになっているよ
・このあとどうなったのかな？

戦国時代や北条氏について、考えを話し合おうとしている。【態】

・北条五代祭りを知っているよ　・小田原駅に銅像があるよね　・北条早雲だよ
・五代祭りって５代？　・五代じゃ５人かな　・北条早雲が初代だよね　・あとの４代は？
・１００年続いたんだ　・この時代に１００年ってすごいね　・戦国時代の勢力図でもずっと残っていたよね
・北条氏は強かったということかな　・北条五代の５人って、どんな人たちだったのかな？　・どんな１００年だったのかな？
・小田原城 も関係があるのかな　・小田原城の総構が有名だよ
・総構えの跡がまだあるんだよね　・総構ってどんな？
・１００年でどうして終わっちゃったんだろう
・豊臣秀吉の勢力が全国に広がっていたから、そこで終わったのかも

小田原城小峰の大堀切跡を見学し、戦国時代を身近に感じたり、より興味をもったりできるようにする。

北条氏はなぜ、１００年で終わったのかな？②

北条五代は、どんな１００年だったのかな？

秀吉による小田原征伐の小田原城包囲図を提示する。

・北条氏・小田原城が囲まれている
・北条氏が攻められている　・みんな敵なのかな

・秀吉・家康がいる　・海からも攻められている
・差がありすぎるね　・勝てないよ
・この戦いが滅びた原因かな　・３ヶ月お互いにどうしていたのかな

北条軍約６万　対　秀吉軍約２２万の戦いであったこと、この状態が３ヶ月間続いたことを提示する。

北条氏は降参し、戦わずして戦が終わったことを提示する。

・諦めるしかなかったんだよ　・戦わなかったということは、だれも死なかったのかな　・戦わないことを選んだのかな
・北条氏はなぜ、降参したんだろう　・それまで１００年続いていたなら、戦ってもよかったんじゃない
・降参して、小田原の町が支配されてしまったのかな　・小田原の町や人はどうなったのかな

北条五代は、どんな１００年だったのかな？③④⑤

北条氏はなぜ、１００年続いたのかな？

・北条五代は、どう続いてきたのかな
・戦い方はどうだったんだろう

北条氏はなぜ、降参することを決めたのかな？

・小田原城が包囲されて、３ヶ月間どうしていたんだろう
・豊臣秀吉側はどうしていたのかな

北条五代は、どんな１００年だったのかな？③④⑤

北条氏はなぜ、１００年続いたのかな？

北条五代　早雲・氏綱・氏康・氏政・氏直について

人柄　政策　戦術　降参後の小田原について

・戦い方が強かった
武田信玄との戦い
上杉謙信との戦い
城のつくりが工夫されていた
（他の城も小田原城を参考にした）
総構、土塁、堀、門

・民衆と信頼関係で結ばれている
百姓に礼を尽くす（目安箱、徳政令）
虎朱印、禄寿応穏
（人々が平和で暮らすという願い）

・お家騒動がなかった
長男が家督を継ぎ、弟たちが
それに協力する体制
他の戦国大名にはない

・町の産業を発展させた
町づくり
鍛冶屋　漁業　鋳物　ういろう
商人や農民が集まりやすい
武器・水軍など戦いも強くなった

・政治がよかった
二十一箇条の家訓
一族、家臣との信頼関係
何事も話し合って決めた（評定衆）
検地を行い税金を決める（飢饉の時は減税）
職人に領地を与えた（武士と同等）

北条氏はなぜ、降参することを決めたのかな？

小田原攻めについて（北条側）

小田原攻めについて（豊臣秀吉側）

（秀吉側）
総構で近寄ることができず、長期戦で降伏させる作戦
小田原城包囲　石垣山一夜城築城
茶会　能

・大事なことを話し合いで決めた
↕　小田原評定　↕
・長引いてなかなか結論が出ない話し合い

資料を読み取り、北条五代の政治の特徴を捉えることができる。【知技】

北条氏はなぜ、降参することを決めたのかな？⑥（本時）

これまでの学習をもとに、根拠をもって北条五代の政治や降参の理由について話し合おうとしている。【態】

北条五代の政治が果たした役割や思いについて考えることができる。【思判表】

民衆や町を守るため
- 早雲の時代から受け継がれた考え方
- 民衆と信頼関係があった
- 産業を発展させた町を大事に思っている
- 戦うと民衆が死んでしまう

秀吉が強すぎて勝てないため
- 敵である秀吉が強すぎる
- 勢力を全国に広げている
- 一夜城で余裕にしていた
- 一夜城を見て戦う気をなくした

豊臣秀吉ってどんな人なのかな？⑦

人物

百姓出身　信長を慕っている

政策

大阪城　刀狩り　太閤検地
朝鮮出兵

出来事

全国統一した　明智光秀を倒す（信長の仇）

・秀吉が尊敬する信長は、どんな人なのかな

・北条氏を滅ぼした豊臣秀吉ってどんな人なのかな

・北条氏は戦国時代の初めから終わりまで関わっているんだ

・もっと詳しく知りたいな

小田原城天守閣を見学し、戦国時代を生きた北条氏について、より詳しく知ることができるようにする。

織田信長ってどんな人なのかな？⑧

人物

全国統一をめざす　戦術に長けていた

政策

安土城　大阪を拠点
鉄砲を取り入れた　キリスト教を取り入れた
楽市楽座　商業に力を入れる

出来事

長篠の戦い　全国統一まであと一歩で死ぬ
本能寺の変　明智光秀に殺される

・長篠の戦いで信長・秀吉と共に連合軍として武田軍を倒した徳川家康ってどんな人なのかな

徳川家康ってどんな人なのかな？⑨

人物

江戸に幕府を開く１代目

政策

江戸に幕府を開く　鎖国　参勤交代

出来事

関ヶ原の戦い

・徳川家が支配した江戸時代はどんな時代なのかな

資料を読み取り、３人の武将の政治について特徴を捉えることができる。【知技】

次単元　「幕府の政治と人々の暮らし」

６．本時について

（１）本時目標　　これまでの学習をもとに、根拠をもって北条五代の政治や降参の理由について話し合い、北条五代の政治が果たした役割や思いについて考えることができる。

（２）本時展開

学習活動	主な支援・留意点　◆評価【観点】
北条五代は、どんな１００年だったのかな？（前時～） ・戦い方が強かった　・民衆との信頼関係が強かった ・政治がよかった　・産業が発展していた　・お家騒動がない ・小田原攻め（北条側・秀吉側） ⇩ **北条氏はなぜ、降参を決めたのかな？** 民衆や町を守るため ・早雲の時代から受け継がれた考え方 ・民衆と信頼関係があった ・産業を発展させた町を大事に思っている ・戦うと民衆が死んでしまう 秀吉が強すぎて勝てないため ・敵である秀吉が強すぎる ・勢力を全国に広げている ・一夜城で余裕にしていた ・一夜城を見て戦う気をなくした	○学習の足跡を残し、話し合うときにふり返ることができるようにする。 ○学習問題を想起し確認することで、自分の考えを明確にもてるようにする。 ○前時までの学習をもとにして、根拠を示しながら、考えや根拠の共通点や相違点に着目して、話し合うことができるようにする。 ○学習問題について話し合う。 ・ネームプレートで個々の立場を分かるようにして話し合う。 ・出された考えに対するつぶやきを拾い、問い返すなど適宜する。 ・整理して板書することで、考えの相違や広がりが視覚的に捉えやすくする。 ○北条氏はなぜ降参を決めたのかについて、改めて考える時間をもつ。 ◆これまでの学習をもとに、根拠をもって北条五代の政治や降参の理由について話し合おうとしている。【態】 ◆北条五代の政治が果たした役割や思いについて考えることができる。【思判表】

７．実践を終えて

本単元の導入では、「戦国時代はどんな人物が関わっているのだろう？」という疑問をきっかけに、数多くの武将が戦国時代を駆け抜けてきたことを知った。また、有名な武将の中に小田原北条氏がいることに気付き、子ども達は小田原と戦国時代の結びつきに興味をもつことができた。北条氏が戦国時代の１００年もの間、五代にわたって小田原を支配していたという事実から、「北条五代１００年がどのようにして終わったのか？」という疑問をもった。どんな１００年だったのかを知りたいと、まず考えると予想していたが、子ども達は長い１００年がなぜ終わってしまったのかということに興味をもった。北条氏が降参し戦わずして戦が終わったことを知ったことから、「北条氏はなぜ、降参することを決めたのか？」といった疑問が生まれた。その疑問を解決するために、「北条五代はどんな１００年間だったのか？」を知る必要があると子ども達は考え、それぞれ興味ある事項に分かれて調べ学習を進めた。調べたことを全体で共有した上で、改めて「北条氏はなぜ、降参することを決めたのか？」について考えたいという思いを高め、子ども達の解決したい問題となっていった。ノート指導では、単元を通して毎時間のふりかえりを書いていくことで、自分自身の気付きや考えの深まりを実感したことが読み取れた。

本時では、それまでに調べてきた北条五代１００年間の政策や戦い方、秀吉側から見た小田原攻めなど、小田原北条氏について多角的に捉えたことをもとに話し合った。一人ひとりが考えをもち、それぞれ既習事項や資料の内容を理解して活用しながら話し合うことができた。重複した内容を発言している子どもへの問い返しや、調べた情報を共有する時間を確保すると、より考えを深めひびき合うことにつなげられたと考える。

〈成果〉

・それまでの学習をもとに、一人ひとりが自分なりの考えをしっかりともち、話し合いの流れに沿って、互いの考えを聴き合い話す姿が見られた。

・それまでに学習してきたことや資料の内容をそれぞれがよく理解し、学習問題に向かう姿があった。板書をそのまま生かした学習履歴の掲示物も効果的だった。

・実際に行った総構の見学が、みんなの共通体験としてイメージを共有するために有効だった。

・ＩＣＴ（オクリンク）を有効に活用し、友達の考えをよく読み、子ども達が主体となって必要な画面を共有し合いながら話し合いをしていた。

〈課題〉

・子ども同士が考えの共通点や相違点を理解しながら話し合うことができると、よりよいひびき合いの姿へと近づくと考える。話し合いを深めるため、教師が子どもの反応に立ち止まったり、発言した内容を問い返したりすることも適切に行っていくとよい。

・前時から続いていた北条五代１００年について調べた事を共有する時間が長く、本時の学習問題について話し合う時間が短くなってしまった。共有方法を工夫するなどして時間配分もしっかりとできるとよい。

見学に行った小田原城総構・小峯御鐘ノ台大堀切